

まいづる元氣人



れんが色に魅せられて

NPO法人 赤煉瓦倶楽部舞鶴 理事長 馬場 英男 さん

赤れんが建造物の調査や保存・活用など「赤れんが」を生かしたまちづくりに取り組む赤煉瓦倶楽部舞鶴。全国の近代建築保存の先導役を果たしたその活動が評価され、日本イコモス賞を昨年12月に受賞されました。理事長の馬場英男さんに倶楽部発足の経緯や赤れんがへの思いを伺いました。

赤れんがを生かしたまちづくり

赤煉瓦倶楽部舞鶴は平成3年に発足し、平成12年からNPO法人として活動。主に赤れんがの保存と活用に向けた調査・研究などに取り組む「赤れんがのまち舞鶴」を市内外へ発信しています。そのPRイベントとして平成3年から20年間「赤煉瓦ジャズ祭」を続けてきました。また、市内で初めての建物へのライトアップを市政記念館で行ったりもしました。現在、主に取り組んでいるのは市内に130件ある赤れんが建造物の見学会です。金ヶ岬や博打岬の砲台などを回り「こんなところがあるんだ」と参加者に再認識してもらいたい。そして、見た人から今後のまちづくりに生かす方策が生まれればと取り組んでいます。最近では、れんがの他に旧丸山小学校の保存活用にも地域活性化の観点から関わっています。

活動は市内だけではなくありません。全国組織の「赤煉瓦ネットワーク」の運営にも関わり、全国の歴史的な建物の保存を支援する活動にも参加しています。

集まった舞鶴まちづくり推進調査研究会が前身。都市景観、都市防災、都市の個性化などの視点から調査・研究を進めました。その中で、舞鶴のイメージ分析をしようとアンケートを取ったところ「気候が悪い」「活気がない」「イメージカラーは『灰色』とマイナスイメージばかり。何とかプラスに変えたいと思いました。当時は赤れんがを活用する意識は全くありませんでしたが、横浜市のまちづくり研究会の「赤煉瓦パーク構想」の視察をきっかけに、市内にある倉庫を調べると、市民の手の届く所に12棟の赤れんが倉庫が密集し、全国的にも珍しいことだと分かりびっくりしました。このことをアピールしようとしたことが市政記念館のライトアップの発想につながりました。

赤れんがとジャズ

ジャズピアノニストの山下洋輔さんの祖父が建築家で、赤れんがで造られた五大監獄の建造に関わっておられました。山下さんが小浜市にライブに来られることを聞き、赤れんがでもジャズをしてもらおうと直接

れんが色に魅せられて

お願いに行きました。「舞鶴赤煉瓦浪漫」という赤煉瓦建造物を紹介した地図を持って交渉したところ「これはすごい、やりましょう」と。このジャズライブは、ほんと大変でしたが20年も継続することができました。昨年、今後のまちづくりに生かしてほしいと、この赤煉瓦ジャズ祭のあゆみを冊子にまとめ発刊しました。

長年、活動を続けてこられたのは「舞鶴を良くしたい。『灰色』のイメージを変えたい。舞鶴を誇りに思えるまちにしたい」との思いが根底にあったから。市民、市民組織、歴代の市長の皆さんと一緒に協働して赤れんがを保存・活用していく思いがあったからこそだと思います。いくら遠くで残そうと叫んでもだめで、その思いを受け、市が継続して整備した結果として今があるのだと思います。赤れんが倉庫が造られた当時窯の中でまきや石炭を使って土を焼いてできた赤れんがを、1つ1つ丁寧に人の手で積み上げられた。その温かみを感じる「れんが色」に私は魅せられてしまいました。



まいづる

花図鑑



vol. 125

宮城県以南に分布する常緑の小高木で高さ2〜5m、大きいものは10mを超える。樹皮は灰黒褐色で若い枝は緑色。葉は長楕円形で長さは4〜12cmくらい。肉厚で艶があり、枝の上方に互生する。

冬、葉の腋に径2〜3cmで花弁が10〜20枚の黄白色の花を1個ずつ付ける。果実は扁平で八角形。葉には香気があり仏事に使われる。名前の由来は、全草が有毒。特に果実は毒性が強いことから「悪しき実の読み方が訛ったなど」諸説あり。

【協力】 瓜生勝朗

市文化財保護委員(植物分野)



シキミ (シキミ科)

見ごろ 12〜3月頃

